

## 足利赤十字病院神経精神科を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	精神科患者に対する甲状腺機能スクリーニング検査の有用性の後視的研究
当院の研究責任者	船山道隆（神経精神科）
他の研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	<p>【目的】精神科で行われた甲状腺機能のスクリーニング検査が臨床的転帰に与える影響を評価し、その検査の有用性、妥当性を検証することを本研究の目的としております。</p> <p>【背景】精神症状を呈する疾患は精神障害のみに限らず、精神症状を呈した患者の診療にあたって器質的疾患を除外することは重要なプロセスです。なかでも甲状腺疾患は精神症状を呈することが知られている、有病率の高い内分泌疾患です。</p> <p>甲状腺疾患は有病率の高い疾患であります。予防医学の有効性を検討しているUS Preventive Services Task Force (USPSTF) は、一般成人に対する甲状腺機能のスクリーニング検査は臨床的転帰を改善させる証拠に乏しいことから推奨していません。</p> <p>精神科患者に対する甲状腺機能のスクリーニング検査は当然の対応として認識されている一方で、スクリーニング検査で発見された甲状腺機能異常を持つ患者のうち、症状精神病と判断された患者の割合を評価した報告はなく、スクリーニング検査を行うことで甲状腺機能異常を有する患者の臨床的転帰が改善するか否かについても明らかになっていません。</p>
調査データの対象と該当期間	2013年1月1日から2022年12月31日までの間に足利赤十字病院神経精神科の外来ないしは入院した患者様
研究の方法	電子カルテの検索システムを用いて甲状腺機能の検査が行われた患者を抽出し、甲状腺機能異常の頻度を調査します。各施設基準に照らして甲状腺機能異常が認められた患者の、臨床的転帰、甲状腺疾患治療の有無および内容を調査する。患者の臨床的転帰と、患者背景および臨床情報との関連を調査します。

	<p>※主要評価項目：スクリーニング検査で甲状腺機能異常を呈した精神科患者の臨床的転帰（甲状腺疾患の治療を行い精神科治療は終了した、甲状腺疾患の治療を行ったが精神科治療も継続した、甲状腺疾患の治療を行わなかった、転医あるいは脱落）</p> <p>※副次評価項目：スクリーニング検査における甲状腺機能異常の頻度、スクリーニング検査で診断された甲状腺疾患の治療の有無およびその内容</p>
情報の他の研究機関への提供	<p>特定の個人を識別できないように加工した匿名加工情報を研究代表者のパソコン内にファイルにパスワードをかけた状態で保管します。情報等を研究事務局等の関連機関に送付する場合は匿名化番号を使用し、被験者の個人情報が外部に漏れないよう十分配慮します。すなわち匿名加工情報のみ、ファイルにパスワードをかけられた状態で、電子メールにて研究者間で授受されます。また、研究の結果を公表する際は、被験者を特定できる情報を含まないようにします。研究の目的以外に、研究で得られた被験者の情報を使用しません。</p>
個人情報の取り扱い	<p>利用する情報から患者様を直接特定できる個人情報は削除しています。また研究成果は学会発表や論文を予定していますが、その際も患者様を直接特定できない形式となっています。</p>
本研究の資金、利益相反	<p>ありません</p>
お問い合わせ先	<p>電話 0284-21-0121 担当者：神経精神科 船山道隆</p>